

# 子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mailtp:info@kodomonono-mori.net

J P子どもの森づくり運動  
参加園月例会報  
(2024年2月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



恒例の「全国集会 & 研修会2024」が今年も開催されました。

念願の東京大学名誉教授の汐見先生にもご出講いただき、とても有意義な内容で終えることができました。今回得られた成果は、2024年度の活動に反映してまいりたいと思います。

写真は、全国研修会で認証された「保育防災アクションマイスター」3期生の皆さんです。

2024年度生（4期生）の募集も始まっております。

ご興味のある方は、ホームページの「**保育防災認定講座**」をご覧ください。

子どもたちの命を守る大切な活動です。皆さんのご参加をお待ち申し上げます。

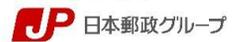
(目次)

1. J P子どもの森づくり運動「全国集会 & 研修会2024」開催レポート
2. リレーエッセイ（2024年2月号）

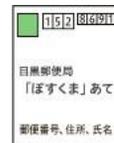
日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】



お手紙をくれたみんなに  
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube  
ぽすくま【日本郵便】  
[https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX\\_NqUUZ9A](https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A)

ぽすくまと仲間たち  
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは日本郵便のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691  
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

## 1. J P子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2024」開催レポート

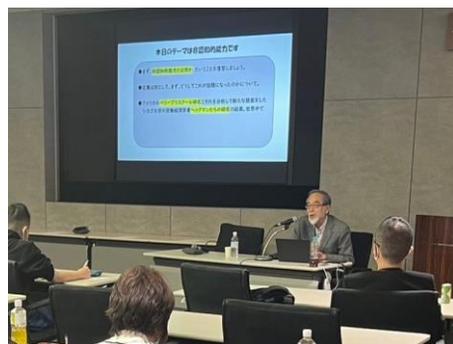
今年も、恒例のJ P子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2024」（以下「全国集会&研修会」）が開催されました。「全国集会&研修会」には、J P子どもの森づくり運動の参加園を中心に、全国の保育・幼児教育関係者が集います。内容は、よりよい保育・幼児教育について考え、議論する「全国集会」（1日目）と、実践園の事例から学ぶ「全国研修会」（2日目）から構成されています。さらに2日間通じて、新しい出会いと参加者相互の交流を深める場としてご活用いただくことを目的に毎年開催しています。J P子どもの森づくり運動にとっても、新しい年度の方向性を考える大切な機会です。おかげ様で、今年もとても有意義な内容で終えさせていただきました。運営にご支援いただいた方々に心より御礼申し上げます。以下、開催レポートです。**レポートの詳細は、ホームページをご覧ください。**

- 1) 開催日：2024年2月13日(火)、14日(水)
- 2) 会場：「大田区産業プラザ PIO」（東京都大田区南蒲田1-20-20）特別会議室
- 3) 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 4) 共催：国際校庭園庭連合日本支部
- 5) 特別協賛：日本郵政グループ
- 6) 後援：公益社団法人子ども環境学会
- 7) 協力
  - ・（公社）全国私立保育連盟 ・（公社）大谷保育協会 ・子ども環境研究所ギビングツリー
  - ・（公社）国土緑化推進機構 ・東京ゆりかご幼稚園
- 8) 開催テーマ：**非認知能力を育む幼児期の「遊び」を考える**

### 1) 1日目：開催テーマについて考え、議論する「全国集会2024」レポート



● J P子どもの森づくり運動2023年度活動報告



● 東京大学名誉教授 汐見 稔幸氏による基調講演



● NPO法人日本冒険遊び場づくり協会  
代表 関戸 博樹氏による事例発表



● 講師、発表者によるテーマを深堀りする  
パネルディスカッション

## 2) 2日目：実践に学ぶ「全国研修会2024」レポート

「P子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2024」2日目は、「保育防災」と「園庭緑化」をテーマに、全国の保育者の実践に学ぶ研修会としました。「保育防災」では、「前・釜石小学校」校長の渡邊 真龍氏による『釜石の奇跡』をテーマとする基調講演が行われました。その後、「保育防災アクションマイスター認定講座」第3期生の活動発表とマイスターの認証状と認定園書書の授与式が開催されました。「園庭緑化運動」では、3園のモデル園による活動発表もあり、今年も盛りだくさんの有意義な研修会となりました。



●「保育防災」基調講演  
前・釜石小学校 校長 渡邊 真龍氏



●保育防災認定講座3期生6園による  
2023年度の活動発表



●保育防災アクションマイスター認定講座  
3期生のマイスター認証状と認定園書の授与式



●「保育防災認定講座」講師のタフ・ジャパン代表  
鎌田 修広氏による2023年度の活動総括



●「園庭緑化運動」モデル園3園による  
2023年度活動発表



●「園庭緑化運動」プロジェクトコーディネーター  
田園調布学園大学大学院 准教授 仙田 考氏に  
よる2023年度の活動総括

※保育防災アクションマイスター2024年度生（第4期生）の募集を開始しました。

詳細は、右のQRコードをご参照いただき、ご参加願います。



## 2. リレーエッセイ (2024年2月号)

岩井 光子さんによるリレーエッセイ「SDGs 入門」の今月号は、SDGsの目標の3番「すべての人に健康と福祉を」についてです。口腔ケアは、幼児期からシニアまで、すべてのライフステージの健康と福祉に関わるテーマなんですね。

### 【SDGs入門】

人生100年時代 口腔ケアと持続可能な社会の関係性とは？

ライター 岩井 光子



今月は環境の話といっても、お口の中の環境の話です。皆さんは子どもの頃にむし歯がありましたか？ 最近の子どもたちは歯磨きが行き届いていて、文科省の学校保健統計調査によると、12歳（中学1年）の永久歯のむし歯の平均本数は、2015年からずっと1本を切っているそうです。

矯正して噛み合わせや歯並びを改善することも当たり前になってきました。スポーツや歌など大好きな習い事でパフォーマンスを上げたり、自分に自信を持つたりするためにも、健康な歯は重要な役割を果たします。また、食べものをよくかむことが子どものあごの成長や脳の活性化に関連があることを、保育士の皆さんは既によくご存知だと思います。



最近の研究では、口内環境の良し悪しは体全体の健康に関わることが明らかになっています。歯周病と生活習慣病、口腔ケアと誤えん性肺炎の間に深い関連があることもわかってきました。

1月の能登半島地震でも、断水した被災地に日本災害歯科医師チームが、口腔ケアの支援に入りました。水がないと衛生状態は悪くなり、インフルエンザやコロナなどの感染症が広まりやすくなります。また、高齢者や特定疾患のある人は就寝中に口のばい菌が気管から肺に入り、誤えん性肺炎を引き起こす可能性が高まるそうです。

実は1995年の阪神・淡路大震災の災害関連死で最も多かったのも、この誤えん性肺炎でした。避難する際には歯ブラシを持参してブラッシングしたり、ティッシュなどで歯をふいたり、少量の水やお茶で口をすすぐだけでも効果はあるそうです。あるいは、口をマッサージして唾液を出すのも口の中をきれいにする一つの方法だそうですので、覚えておきたいですね。

今、人生100年時代といわれています。日本は世界有数の長寿国で、厚生労働省資料によると男性の平均寿命は81.05歳、女性は87.09歳（2022年）ですが、最期まで健康で自立した生活を送れる人はどうかというと、数はぐっと少なくなります。

心身共に自立して生活できる期間を延ばそうと、WHO（世界保健機関）が2000年に「健康寿命」という考え方を提唱し、広めてきました。日本の健康寿命は男性が約72歳、女性が約75歳。寿命が長い分、多くの人が10年以上支援や介護を受けながら晩年を過ごしていることがわかります。

すべての人が健康を維持しながら幸せな人生を送るためにも、健康寿命と実質の寿命のギャップを縮めることは今、日本の健康づくりの重要課題であり、健康な口内環境と健康寿命の延伸は非常に関連が深いという認識が共有されています。

これは持続可能な社会の実現にもつながることで、SDGsの目標の3番「すべての人に健康と福祉を」に当てはまるのです。

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど、一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。